

昨年度の成果と課題

取り組みにおける成果と課題

- ・課題解決学習の流れを児童がだいたい理解して定着してきている。その結果、高学年になるに従い、関心・意欲・態度や観察・実験の技能が高まっている。
- ・既習事項が知識・理解としてしっかり定着してないことがあるので、確実に理解させる取り組みが必要である。また、考察として考えをまとめることをやや苦手にしていく児童がいるので、考察場面で指導方法を工夫する必要がある。

平成28年度の調査結果の分析

結果の分析

- 4年生・・・基礎活用の力、各領域、及び、全ての観点において目標値を下回っている。科学的な思考・表現力や活用する力はほぼ目標値に近いことや考える力はあるが、自然事象についての知識・理解、観察・実験の技能が下回っていることから、学習内容の理解が不十分だったと考えられる。
- 5年生・・・観察・実験の技能のみ目標値をやや下回っているが、全体的に目標値を上回っている。特に自然事象への関心・意欲・態度が優れていた。
- 6年生・・・昨年度と比べるとだいぶ上昇しているが、まだ目標値を全体的にやや下回っている。物質・エネルギー分野の科学的思考・表現力が課題であるが、観察・実験の技能は大幅に伸びてきている。

調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

今年度は、以下に示す授業改善プランを実際に取り入れ、丁寧な学力向上授業を展開していく。

○問題解決学習の確立

中・・・課題解決学習に合わせた理科的な思考の基礎を身につけるために、課題、予想、観察・実験、結果、考察、新たな疑問などの形式という基本の活動の流れやノートのとり方等を指導する。

高・・・高学年では、中学年で学んだ基礎の上に、それを活用し学習上の自立を図るような流れを少しずつ進めていく。見本実験等から自分達で考え出した課題に予想を立て、解決するための方法を考えることから大切にする。常に目的意識をはっきりもって観察や実験に望む姿勢をもたせていく。

○学習したことの確実な理解

中・・・定着を図る時間も重視する。理科的な用語を使って考察やまとめを書かせたり、テストプリントで学習内容を復習したりして、自分の理解度を確かめる学習を取り入れていく。また、関連する単元で学習したことを振り返る活動をして、知識・理解の再確認、再構築の場とする。

高・・・中学年にプラスして、高学年においては、既習学習を生かし考える授業を行う。課題に対して、どうすれば課題が解決できるのか考えさせることで、視点を明確にして体験し、結果を数値化やグラフ化など合理多岐な処理をして、理解を確実にする。